

採録される論文の書き方

—誌上チュートリアル—

瀬田 和久*, 桑原 千幸**, 仲林 清***

Principles of Writing Papers for Transactions of JSiSE —A Tutorial—

Kazuhisa SETA*, Chiyuki KUWAHARA**, Kiyoshi NAKABAYASHI***

This tutorial explains principles of writing papers for transactions of JSiSE. In this paper, we first roughly classify the research conducted in the research field of information and systems in education, introduce the paper categories of JSiSE, and explain the guidelines for selecting the paper category. Then, we will introduce principles for clarifying research questions, which are important points for papers to be accepted, and introduce concrete examples of research questions by picking up from practical papers that have been accepted. In addition, by introducing the editorial board's underlying philosophy of reviewing papers in more detail, we hope authors utilize it for writing papers.

キーワード：リサーチクエスション，研究タイプと論文種別のマッチング，実践論文，審査の考え方

1. はじめに

学会誌編集委員会では毎年の全国大会で、論文の採録に至るためのポイントを解説するチュートリアル企画を行ってきました。そこでお話ししていることと、編集委員会で議論してきたことをもとに、採録に近づけるための論文の書き方について誌上チュートリアルの形で、口語調で書かせていただきたいと思います。

最初に、最もベースになるところからになります。編集委員会がどんな体制を組織して、査読に対してどのような考えでのぞんでいるか、という基本的なところから話をスタートしていきたいと思います。

ご存じのように JSiSE では、学会誌を年 4 回発行しています。学会誌編集委員会と名前がついていますので、本学会誌の編集作業をする委員会です。2 年周期で委員の半数が交代し、4 年周期で委員長も変わりますのでやや大きな体制変化となります。第一著者が委

員長になったのが、柏原先生が会長に就かれた 2019 年の 7 月で、学会誌の方向性、査読の考え方について「多少荒削りでも、面白い論文、独創的な論文を積極的に取り上げる努力をこれまで以上に払ってほしい」ということを強く仰いました。現編集委員会では、このことをミッションステートメントとして、学会誌の魅力向上に取り組んでいます。

体制面では、多少荒削りでも、面白い論文、独創的な論文をしっかりと採り上げる、見落とさないということのために経験豊かな 4 名の先生方に、シニア委員としてお入りいただいています。

少し話は派生するのですが、学会誌の魅力向上に向け現体制で取り組んでいることについてこの機会に少しだけご紹介させていただきたいと思います。

1 つ目に、この誌上チュートリアルにも深く関わることとして、Vol. 37, No. 2 からスタートした採録論文ハイライトがあります。現体制ではいくつかの WG を

* 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 (Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences, Osaka Prefecture University)

** 京都文教短期大学ライフデザイン学科 (Department of Design for Contemporary Life, Kyoto Bunkyo Junior College)

*** 千葉工業大学情報科学部 (Faculty of Information and Computer Science, Chiba Institute of Technology)